

いのちをつなぐ ドクターヘリ



ドクターヘリは、救急医療用の医療機器等を装備し、救急専門の医師と看護師が同乗し、重症患者等を高度な治療を行うことのできる病院へ短時間で輸送することができます。また、その間、患者に救命医療を行うことのできる専用ヘリコプターです。

しかし、ドクターヘリは日中しか運航できないという課題があり、現在夜間飛行実現へ向け取り組みがなされています。



何故夜間は飛べないの？

それは、有視界飛行（人の目をたよりに操縦）するため夜間や悪天候などのときは、目標物、障害物が見えず、衝突、墜落の危険があるため、夜間飛行はできないのです。

下田地区の運用状況

柿崎地区にある福浦臨時場外離発着場からの搬送が主なるものです。平成25年度には97件の利用がありました。静岡県では2機体制（東部ドクターヘリ、西部ドクターヘリ）で全県をカバーしています。

ドクターヘリは、救命率の向上・後遺症が軽減されるとともに、入院期間の短縮により医療費が削減でき、経済的効果も期待されます。伊豆南部地域にとつて、なくてはならない第3次救急の医療体制充実の施策となります。

夜間飛行実現への課題

平成20年から県は伊豆南部地域における夜間運行実現に向けて調整を始めています。安全確保を最優先に考え、継続した安全運航のためには、

聖隷三方病院（浜松）と下田地区ヘリポートの2地点間を結ぶ専用の経路を設定し、管制官の指示を受けて飛行する計器飛行方式による運航が最も安全を確保できるという検討結果を出しております。離発着場確保に向けては用地の問題や、ヘリポート設置に伴う騒音等周辺環境に与える影響の少ない候補地の確保に向けてさらに調整が必要となります。

あらゆる視点から地域医療を考える

ドクターヘリの夜間飛行だけでなく、地域医療機関同士の連携や伊豆縦貫自動車道の開通による道路事情の進化など、様々な観点で、人の命の大切さを考え、下田市の医療環境のさらなる充実にこれからも努めてまいります。

問合せ先 市民保健課健康づくり係
(窓口⑤) ☎ 2217

「下田市地域公共交通基本計画素案」に関する意見の募集 (パブリック・コメント)について



問合せ先 地域公共交通会議
(企画財政課企画調整係) ☎ 2212

市では、今後、人口減少や少子高齢化が進むことが予測される中、地域経済、居住環境、生活スタイルの変化などを見据え、市内における移動や周辺市町との地域間移動に便利な生活交通体系の実現に向けて、「下田市地域公共交通基本計画」の策定を進めています。

このたび、素案を作成しましたので、皆様のご意見をお聞かせください。いただいたご意見等は、今後の計画策定や交通施策の参考とさせていただきます。
※素案の内容や意見書様式は市ホームページでダウンロードできます。もしくは上記までお問い合わせください。

意見書の提出期間 3月3日(火)まで
意見の提出できる方

市内に住所を有する方・市内に通勤する方・市内に事業所又は事務所を有する方・パブリックコメント制度の対象となる事項について利害関係を有する方

意見の提出方法
意見書様式に、必ず住所、氏名、電話番号を明記の上、下記まで持参、郵送、ファックス、メールいずれかの方法にて提出してください。
下田市地域公共交通会議（企画財政課企画調整係）
〒415-8501 静岡県下田市東本郷1丁目5-18
☎ 23910 ✉ kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

下田おもてなしプログラム with世界一の海づくりプロジェクト



参加者募集
申込・問合せ先 観光交流課観光戦略係 ☎ 3913

市及び観光協会では、観光接遇研修として、「下田おもてなしプログラム」を定期的に開催しています。この研修は、市内観光施設・観光イベント等を実際に見学・体験してもらい、日々変化している「下田の観光」について知ってもらうことを目的としています。

今回は現在進めている世界一の海づくりプロジェクトの一環として、クロスバイクインストラクターのガイドを受け、下田の景色を楽しみながら各施設を見学する自転車ツアーのような形態で実施します。
これを機会に下田の自然と歴史を堪能しましょう！

日時 2月25日(水) 8時40分集合（17時15分終了予定）
集合場所 道の駅開国下田みなと4階 会議室2
研修内容

講習及び市内の観光施設等をクロスバイクで回り見学します（雨天の場合、マイクロバスでの移動）。
●講習会（おもてなしについて）
●施設見学（道の駅開国下田みなと ハーバーミュージアム・玉泉寺・了仙寺・下田開国博物館・下田海中水族館・宝福寺※見学場所は変更の可能性あり）
参加費 無料（昼食は各自負担。下田ガイドマップ加盟店でお食事ください。）
定員 10名 **募集締切** 2月16日(月)まで

メディカル通信



今月は当院の専門外来(予約制)をご紹介します。

禁煙外来の紹介

タバコは最強・最悪の発がん物質と言われ、肺がんのみならず、咽喉頭がん、食道がんなど、様々ながんの要因となります。そのため、現在では医療保険を使って治療することが可能です。
1日の喫煙本数×喫煙年数が200を超え、自らの意志のみではやめられない方はぜひ受診をお勧めします。

肛門外来の紹介

痔は痛みを伴うもの、出血するもの、飛び出してくるものなど症状も色々で、その程度も様々です。放っておいても自然に治る痔もあれば手術が必要な痔もあります。多くは薬で楽になります。痔でお

悩みの方は恥ずかしがらずに一度ご来院ください。
外来診療日 毎週火曜日の午後

乳腺外来の紹介

乳房のしこりなどの症状をお持ちの方の診察の他、乳がん1次検診にて要精査と判定された方の2次検査、市町村検診の対象外である40歳未満で乳がんスクリーニングを希望される方の検査などを行っています。

外来診療日 毎週金曜日の午後

小児科専門外来の紹介

当科はアレルギー認定施設です。喘息、鼻炎、アトピー性皮膚炎の治療と、食物アレルギー関与の症状には除去指導をします。

子供の心身症や発達障害の相談は時間をかけて診断します。臨床心理士外来も開始しました。30年余の漢方処方歴が在ります。希望があれば年齢制限なく諸症状に漢方投与をします。

外来診療日

第1・3水曜日の午後

問合せ先

下田メディカルセンター
☎ 2525



1月4日消防団出初式が開催されました。消防団の存在・役割の重要性を改めて認識するとともに、団員各位の気概を感じました。

消防団は、市町村の非常備の消防機関であり、その構成員である団員は、他に本業をもちながらも「自らの地域は自らで守る」という郷土愛護の精神に基づいて消防・防災活動を行っており、地域の安全確保のために果たす役割は大変重要なものであります。

このことは市民の皆様から十分にご理解をいただいていることと思えます。しかし、社会環境の変化等により様々な課題を有しています。団員の減少対策、事業所の消防団活動への協力と理解の必要、若者や女性の入団促進、団員の処遇改善や装備・教育訓練の充実等があります。

各地の災害現場の報道において、消防団の活動・活躍が常に放映されます。特に、大

規模災害になればなるほど消防団の果たす役割が極めて大きくなると言われております。大規模災害においては当然、自衛隊や警察、常備消防等の出動により、強力な支援が行われますが、災害が広域になり被害が甚大になると、それらの支援が被災地の隅々まで届くには時間がかかることも想定されます。

その結果生まれる「支援の大きな隙間」を消防団の献身的な活動で埋めることとなります。「最初から最後まで」という言葉があり、災害現場に最初からやってくるのが消防団で、最後まで災害現場に留まって活動するのも消防団です。しかし、いくら消防団が奮闘しても、住民（自助）や地域コミュニティ（共助）が災害に強くなっていなければ、その対応には限界があります。個人や家庭、職場や学校、地域や自主防災会における防災意識、防災対応の向上が必要です。

このことが「身を守り、地域を守り、消防団の労に応える」ものと思えます。

下田市長 楠山俊介